

## 2<sup>nd</sup> Chiba-Uppsala Meeting Rudbeck Life Science Symposium

日時：2012年2月16-17日

場所：Rudbeck laboratory, Uppsala Universitet



2012年2月16-17日の2日間にわたって「第2回 Chiba-Uppsala Meeting」が、スウェーデンのウプサラ大学で開催されました。千葉大学は2008年にスウェーデン国立ウプサラ大学と国際交流協定を締結し、2010年には千葉大学医学部にて「第1回 Chiba-Uppsala Academia Joint Workshop」が交流事業として執り行われています。今回のオーガナイザーは前回に引き続きウプサラ大学の Lena Claesson-Welsh 教授と千葉大学の横手幸太郎教授がつとめられましたが、交流拡大を目指しバラエティーに富む4つのセッションテーマが企画されました。このテーマに沿ってウプサラ大学からは前回を上回る8名の研究者が講演され、さらにスウェーデン・カロリンスカ研究所から2名、フランス・ニース大学から1名、千葉大学からは医学研究院に加え薬学研究院の研究者を含む6名（医学研究院：横手幸太郎教授（細胞治療内科学）、三木隆司教授（代謝生理学）、鈴木和男教授（免疫発生学・炎症制御学）、鈴木浩太郎助教（遺伝子制御学）、薬学研究院：山本友子教授、高屋明子准教授（微生物薬品化学））が招聘され、大学間交流事業の規模を超える大きなシンポジウムとなりました。又、ウプサラ大学の多くの研究者や学生も参加され、各セッションを通し非常に活発な質疑応答が行われました。またシンポジウム終了後には、大学内の食堂で全参加者を交えてディナーを兼ねた交流会が行われました。第一線で活躍されている研究者と親交を深めただけでなく、若手の研究者や学生と交流でき、非常に実りあるシンポジウムとなりました。



ウプサラ大学は1477年に設立された北欧最古の大学で、長い歴史と共にあります。シンポジウムは最新の設備が整った研究所で開催されましたが、18世紀に建てられた今なお現役の大学本部などにも案内していただき、興味深い体験をさせていただきました。ウプサラ大学図書館では、杉田玄白の「解体新書」やダーウィンの「種の起源」、ニュートンの「Principia Mathematica」など特別に歴史的蔵書を手にとって見る機会をいただきました。又、17世紀に医学を学ぶ際に使用されていた Anatomical theatre の見学は、現代の医学の礎を感じさせてくれました。ウプサラ大学のように最先端の設備と長大な歴史とが同時に存在することは、学問・研究をするうえで大きなプラスになると思います。後に学ぶ人たちのために「歴史を伝える」こともまた、大学の持つ重要な使命であるように感じられました。



薬学研究院 高屋明子